

1

株式会社ファンケル

各社の考え方

□算定を行う背景・目的

- 【背景】長期目標を策定するにあたり、2050年90億が必要とするエネルギーをどうやって支えるか、どういう事業をするか、そのために何が足りないかを明確にする。
- 【目的】2030年長期事業戦略(VISION2030)を策定に役立てる。
- ・エネルギーを大量に使用しているサプライヤーや製品・サービスを明確にする。
 - ・投資判断の基準とする。
 - ・世の中の変化に対応できる人材育成と環境啓発の資料として活用する。

□算定結果の活用方法

- 持続可能な社会に向けて、どこに投資し、どこに向かっていくかを明確にする。
- 低炭素社会に適用できる商品・サービス開発や技術開発
- 持続可能な調達(方針や目標、基準の設定)
- より効率的なプロモーション

□算定のメリット

- 定量的に判断する経営投資基準とする。
- 投資家への投資根拠資料
- サプライヤーと共通目標(ベクトル合わせ)
- カーボンフリー導入先進企業からの導入ノウハウ情報の提供

□社内の算定体制

- 本社、研究、工場の各部でデータの集計・管理を行い、CSR推進室が取りまとめて算定する。

2

株式会社ファンケル

各社の考え方

□ サプライチェーン
排出量の削減に
向けて

- 長期計画、目標を発表し、社内外の協力が得やすい環境を整備する。2018年2月には、持続可能な調達方針を発表し、主要サプライヤーへは具体的な取り組みを依頼する。
- カテゴリ1(購入した製品サービス)、カテゴリ11(商品の使用)、カテゴリ4(輸送)のCO2排出量でスコープ3全体の8割以上を占める。
- 原材料調達段階では、製品のコンパクト化、容器包材の軽量化やバイオ原料の採用、詰替え化を推進する。また、カタログの紙媒体とWEB等の電子媒体利用に応じた広告投資を行うことで広告効率の向上を図る。
- 商品の使用段階では、メイク落ちの良い節水商品等の開発・提供で環境負荷低減に努める。
- 輸送では、置き場所指定サービスや、ポストサイズなどで再配達の手間を削減する。

□ サプライチェーン
排出量算定の課
題

- 業界の平均値や標準的シナリオを使用して算定したが、排出量の多いカテゴリー、サプライヤーについては、算定精度の向上が必要。
- サプライヤーと連携し排出データ提供を受け、より実態に近づける。
- 使用段階のシナリオについても、お客様の声、ご意見をもとにより実態に近づける。
- 排出量算定の社内外啓発と人材育成。

□ その他(任意)

- 今後は、CO2だけでなく、水資源、自然資本という考え方も入れて影響度把握に努める。

3

株式会社ファンケル

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	● 原材料資材・サービス購入量(重量、金額)	● CFP 基本DB、SC排出原単位DB
カテゴリ2「資本財」	● 設備投資金額	● SC排出原単位DB
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	● エネルギー使用量	● SC排出原単位DB
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	● 輸送重量×輸送距離 トン・キロ法	● CFP 基本DB
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	● 廃棄物種類別排出量	● SC排出原単位DB
カテゴリ6「出張」	● 社員数	● SC排出原単位DB
カテゴリ7「雇用者の通勤」	● 社員数 (オフィス、工場別)	● SC排出原単位DB
カテゴリ8「リース資産(上流)」	● スコープ1,2に含む	●
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	● カテゴリ4の製品輸送データから推算	● CFP 基本DB
カテゴリ10「販売した製品の加工」	● 事業特性上、発生しない、もしくは僅少	●
カテゴリ11「販売した製品の使用」	● 商品使用(標準的な洗顔、洗髪、調理)を仮定しエネルギー量を算定	● CFP 基本DB ●
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	● 製品の使用後の容器包材量を販売量から算定	● SC排出原単位DB
カテゴリ13「リース資産(下流)」	● 事業特性上、発生しない、もしくは僅少	●
カテゴリ14「フランチャイズ」	● 事業特性上、発生しない、もしくは僅少	●
カテゴリ15「投資」	● 事業特性上、発生しない、もしくは僅少	●
「その他」	●	●

4

株式会社ファンケル

算定結果

● サプライチェーン排出量

